

平成28年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	高速掃天観測による連星中性子星合体现象の研究
研究代表者	茂山 俊和（東京大学・大学院理学系研究科・准教授） ※平成28年6月末現在
研究期間	平成28年度～平成32年度
審査結果の所見	<p>本研究は、重力波源の光学対応現象を即時に追観測し、重力波源となった現象の解明を目的とするものである。そのために、（1）重力波到来予想の強化、（2）光学対応現象の広視野探査、（3）光学対応現象の予測と解釈、という3つの研究の柱を設定している。これまで応募者は連星系中の白色矮星が爆発する際の放射を理論的に計算するなど、国際的に最先端の研究成果を発表している。本研究は、これらの成果に基づくものである。日本の重力波望遠鏡 KAGRA の価値を高める研究であり、重力波の世界初の検出という時機を捉えた良い提案である。以上の理由により、基盤研究（S）として採択すべき課題であると判断した。</p>